

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272700624		
法人名	医療法人社団創造会		
事業所名	グループホーム ヴィスタリオ		
所在地	千葉県我孫子市柴崎121-3		
自己評価作成日	平成25年2月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成25年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1. 入居者の重度化(介護度平均3.5)により、おひとりおひとりの対応が厳しくなっているが、安全で安心した生活が出来るよう、職員一丸となり、支援している。</p> <p>2. 母体が病院であり、緊急時の対応や訪問診療の協力が得られている。</p> <p>また、去年は看取りを行う事が出来た。今後も家族と話し合い、希望があれば検討したい。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム ビスタリオ」は、デイサービスが併設された2階建ての2ユニット施設となっている。併設施設とは、日頃からレクリエーションや行事等で交流があると共に、消防避難訓練等で連携を図り、協力体制を構築している。また、併設施設の他にも法人内のサービスとも連携を図り、入居者の生活の活性化や柔軟なサービスの提供に繋げている。地域の方々とは、地域行事の参加や施設行事の招致を通して交流を深めており、地域との繋がりを大切にしていると共に、入居者・家族・職員が一体になり、入居者の自立を大切にしながら、地域での生活を支援している。また、家族会の運営支援や入居者・家族とのコミュニケーションを密に図ることにより、相互の信頼関係を深め、安心してサービスが受けられるよう努めている。職員は、入居者一人ひとりに合わせた支援を常に検討しながら、入居者本位の生活が送れるよう配慮している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は日々確認できるよう掲示しており、その人らしく生活が送れるよう全体会議・フロア会議・朝のカンファレンス等を通して日々話し合っている。	「いつも笑顔で楽しく活気ある自由なその人らしい生活・安心と安らぎのある生活」を理念として掲げている。職員全員で理念の共有がなされており、入居者・家族・職員が一体になり、入居者の興味や自立を大切にしながら、地域での生活を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営会議等で自治会長や民生委員等に協力依頼をしている。又、食事会に参加して頂く等少しずつ交流を深めている。近隣の小中学校のボランティアを受け入れ、交流に努めている。	日頃から、地域行事の参加や施設行事の招致を通して、地域住民やボランティア等との交流を深めており、地域との繋がりを大切にしている。また、小学生の職場体験やヘルパーの実習生の受け入れ等も行っており、地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議等で自治会の方たちと交流の場を設けている。又、職場体験やボランティアを通し、高齢者を理解できる場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の介護職員や地区の代表・家族会会長等の出席の元、積極的な意見交換を行い、サービスの向上の活かしている。	地域や行政の関係者・家族・職員を構成員として、2か月に1回運営推進会議を開催している。運営推進会議を通して、生活や活動状況の報告、意見・情報交換が行われており、施設の理解促進や運営及びサービスの質の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の研修等に参加、又、医療相談の情報等を得て活用している。	業務相談や施設の状況報告等を随時行っており、連携を図っている。市主催の研修や地域密着型サービス事業者連絡会の参加を通して、意見や情報交換が行われている。また、介護相談員の受け入れも行っており、サービスの質や施設運営の向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に行った職員が伝達講習し、職員全体が内容を共有している。但し玄関の施錠に関しては立地条件からくる危険防止に努める為、家族へも説明し、理解を得ている。日中は開放している。	内部及び外部研修が実施されていると共に、マニュアルが整備されている。また、身体拘束委員会が設置されており、定期的に支援方法の検討がなされ、身体拘束のないケアが実践されている。施設の玄関は、安全面に配慮して施錠しているが、家族の理解を得た上で、入居者の安全な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	安全対策・虐待防止委員会を設け、身体拘束についてはマニュアルを作成したり、研修に参加した職員が伝達講習をする事で全職員が共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員共に研修会に参加して理解を深め、必要な家族には説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を取って説明、不安や疑問点はその都度確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で意見を聞いたり、運営会議で家族会代表の方が参加して反映できる場を設けている。	面会・電話連絡・家族会・運営推進会議を通して、家族の意見や要望を確認している。また、意見や要望等を気軽に話せる関係性の構築に努めており、適切な支援に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の意見や不満・苦情等の気持ちを大切に入居者本位を心掛けて会議や朝のカンファレンス等で話し合いをしている。又、家族を通して入居者の意見を取り入れ、改善に心掛けている。	定期的な会議、事業目標やケアプランの作成を通して、サービスや運営に対する意見や提案等を確認している。また、ユニットリーダーや管理者を中心に職員の意見や要望を個別に確認しており、働きやすい職場環境づくりに繋げている。定期的に内部研修が実施されていると共に、外部研修は職員全員が参加できるように計画されており、適切な人材育成がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課、個人面接、決算賞与の支給、バカンス休暇の奨励、その他新年会、誕生会等各自がやりがいをもちながら働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルや経験年数に合わせて全員が研修に参加できるように配慮している。又、法人内の研修も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の意見交換会等に定期的に参加し、勉強及び意見を交換している。又、法人内の研修・意見交換会にも参加している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談・見学等の際に担当者が時間を設け、対応している。電話での相談も受けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談・見学等の際に担当者が時間を設け、対応している。電話での相談も受けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際に傾聴し、内容に応じたサービスが受けられるよう働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アクティビティの時間、フリーの時間等で一緒に楽しみながら創作して完成させた作品を展示し、喜び合ったり、一緒に家事を行いながら談話、傾聴する事で共に過ごし、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りや忘年会を家族会合同で開いたり、面会を参加を呼び掛け、共有した時間をもちよう努めている。入居者の不穏時等、いつでも家族が泊まれる体制を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会も受け入れたり、美容院や掛かりつけの病院にも自由に掛かれる様、本人・家族の希望も取り入れている。自宅への訪問や外食等、本人の希望に合わせ、個別での対応を行っている。	希望に応じて、入居者の馴染みの場所へ外出を支援している。また、日頃の面会や年賀状や手紙の活用により、家族や友人等との馴染みの関係継続も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状態や相性を把握し、食事の席や居室の変更をする等で全員が過ごしやすい生活に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した先への訪問を行ったり、退去者の訪問も受け入れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に十分に希望を確認し、職員間で話し合いを持ち、本人の意向に沿えるように努めている。	入居時の面接で本人や家族の意向・生活歴・身体状況等を確認している。また、病院やサービス事業所等からの情報収集も行っている。入居後は、日頃の会話や様子観察により、入居者一人ひとりの意向の把握に努め、その人らしい生活が送れるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に確認した生活歴等の情報を全ての職員が確認している。又、家族の面会時に情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録やケアプランを通して本人の現状を把握している。又、入居者のペースを尊重しながら支援を行っている。		

【千葉県】グループホームヴィスタリオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から随時希望や意見を聞き、プランを作成している。個別担当者を設け、細かい配慮が出来るように努めている。	各入居者の担当が決められており、担当職員が中心となり、情報の収集及び共有に努めている。入居者及び家族の意向を踏まえた上で、職員間で意見交換や検討を行い、3ヶ月ごとに介護計画を作成している。また、必要に応じて、介護計画の評価や見直しが行われており、現状に即した介護計画が作成されている。入居時は暫定の介護計画を作成し、1ヵ月後に評価及び見直しを行い、正式な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過を個別に記録し、また気づきノートも設け、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生け花、貼り絵等併設のデイサービスを活用し、ニーズに対応できるよう柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア係を作り、ボランティアの受け入れの充実に努めている。年に数回消防署の協力を得て消防訓練を行っている。運営推進会議を通して家族や地域の方々に内容を報告している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も本人・家族希望の掛かりつけ医にかかれるようにしている。受診時は入居中の状況が分かるように情報提供書を渡している。	協力病院を中心に、希望に応じた受診支援がなされている。また、定期的に内科医及び歯科医の往診や看護師による健康状態や服薬状況の確認が行われており、適切な健康管理や医療支援が行なわれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師又は非常勤の看護師が対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療相談員と情報交換を密にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年、看取りを行った。今後も家族との話し合いで希望があれば対応できるよう検討したい。	重度化及び終末期の対応指針を定めており、契約時に説明を行い、同意を得ている。また、対応方法等については、入居者の状況に合わせて段階的に家族の意向を確認しながら検討している。医療機関との連携や医師及び看護師の24時間対応により、施設としてできる限りの支援の実践に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時及び夜勤等で一人勤務になる前に研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、運営推進会議等において地域の方たちにも協力を呼びかけている。	定期的に、夜間想定を含めた消防避難訓練を実施している。また、火災や地震に備えた設備環境やマニュアルの整備、食品等の備蓄がなされており、適切な災害対策がなされている。地域の消防避難訓練にも参加しており、地域との協力体制の構築に努めている。また、地域の方々に運営推進会議等を通して、施設での消防避難訓練の参加を呼びかけている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人による個人情報保護法の研修を全員が受けている。その都度対応についてカンファレンス等で意見を交換している。	研修の実施やマニュアルの整備により、入居者一人ひとりの尊厳に配慮した接遇に努めている。また、笑顔や傾聴を基本とした接遇を行い、入居者のペースに合わせた支援を行っている。会話の内容や会話をする場所などにも注意を払っており、プライバシーの保護にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が伝わるように働きかけたり、傾聴したりして自分で決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい言動、ペースを守れるよう声掛け、見守りを行っている。入居者全員での活動は難しい為、個人に合った支援を行っている。		

【千葉県】グループホームヴィスタリオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望のある方は一緒に洋服を選んだり、理容に関しては月4回業者が来訪。本人の希望を確認して実施している。又、体力的にも可能で家族の協力が得られる方は美容院にも外出されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせながら一緒に食事の準備や片付けを行っている。月に1度、自由メニューの日を作り、個々の希望の献立を聞いて提供している。	食事の準備や片付けについては、可能な範囲で入居者と職員が共同で行っている。献立や食材は業者に委託しており、バランスの良い食事が提供されている。月に2～3回、自由食の日を設けており、入居者の希望を取り入れた食事提供も行なっている。その他、行事食・お弁当の提供や外食会が実施されており、入居者の食の楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	リズム表に記入する事により食事摂取量を把握している。必要に応じ、随時細くしている。水分量の少ない方は個々に把握して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいの励行、定期的な歯科検診により状態を把握している。本人の状態により声掛け、介助をし、毎食後口腔清拭を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リズム表を活用し、排泄パターンを把握するよう努め、入居者に合った支援を家族と相談しながら行っている。失禁のある方は羞恥心や自尊心を傷つけないようさりげなく介入している。	排泄パターンの把握により、入居者一人ひとりに合わせた支援が行われている。また、表情やしぐさを確認しながら、声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。排便については、必要に応じて医師と相談していると共に、日頃の食生活を工夫しながら、適切なコントロールができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師により講習にて便秘を理解し、リズム表にて個々の排泄状況、個々に応じて水分摂取量を記入、把握した上で予防と対策に努めている。		

【千葉県】グループホームヴィスタリオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在の勤務体制では夜勤帯は難しいが極力一人ひとりの希望に合わせてよう努めている。	入居者の希望に応じた支援がなされていると共に、必要に応じて部分浴・シャワー浴・清拭等が実施されており、適切な清潔保持がなされている。浴室環境が整備されており、身体状況に合わせた安全な支援ができるようになっている。併設のデイサービスの浴室を利用する事も可能になっており、入浴の拒否等があった場合に気分転換を行い、入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう配慮した上でその方の体力や生活習慣に合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による薬剤指導の体制があり、常に相談及び指導を得られている。又、薬の説明書をファイルして服薬状況が常に確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に生活歴等の情報を十分に得て入居後も個人個人の好みや能力を見極めて個々に対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、ドライブ等希望に添って対応している。又、季節ごとの行事を計画し、家族と共に参加できるように支援している。又、個々の能力に応じて対応している。	日頃から、散歩・買い物・ドライブの実施や施設の敷地や畑の活用により、戸外での楽しみを支援している。また、合同での外出会や個別の外出支援も行われている。その他、併設のデイサービスや他の法人施設の行事等にも参加しており、外部との交流も行なっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて買い物支援や自己管理への支援を行っている。		

【千葉県】グループホームヴィスタリオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に十分説明し、協力を得て対応している。年に6回ボランティアの方の指導により絵手紙を書き、それを家族宛に郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある花や置物を置く等して取り組んでいる。蛍光灯も明るすぎないような物を使用し、カーテンやブラインド等も活用している。カレンダーや時計を見やすい場所に設置している。トイレも家庭的な面を考慮した上で表示している。	施設内はバリアフリーとなっていると共に、十分な介助スペースが確保されており、安全面に配慮したつくりとなっている。食堂・和室・談話室のスペースがそれぞれ配置されており、入居者が思い思いに自由に過ごせるよう配慮している。また、季節感を感じる装飾がなされ、温かみのある空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には無いが気の合った方同士互いの居室にお邪魔して過ごしたりという事もある。台所が落ち着く人、食堂が落ち着く人、テレビの前が落ち着く人、それぞれが好きな場所を持っている様子。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた馴染みの家具を用意して頂けるよう働き掛けている。	入居者・家族の希望に応じた居室づくりが可能になっており、居心地良く生活ができるように配慮している。また、希望に応じて畳や絨毯を使用することが可能になっている。必要に応じて居室の鍵が使用できるようになっており、入居者のプライバシーにも配慮されている。エアコンによる適切な空調管理がなされており、快適に過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、トイレ等に手摺りを設置、又、居室、トイレには入居者の目線に合わせた表示をしている。石鹸や歯磨き粉等必要に応じて昔馴染みの者に切り替えて本人が分かるようにしている。又、転倒防止の為。個別にセンサーの設置、フットライトを備えている。		